



ユネスコエコパーク通信

農家民泊に関する研修会を開催しました！

綾ユネスコエコパークまちづくり協議会主催の「農家民泊に関する研修会」は1月28日、えびの市・小林市・高原町でグリーンツーリズムや体験型観光を推進している「北きりしま田舎物語推進協議会」の富満哲夫会長と小倉憲子事務局長を講師に迎え、役場会議室で行われました。

まちづくり協議会の商品開発班ワーキングメンバーや農家民泊の研修の受講経験者、農家民泊に興味のある地元農家や町職員など22人が、綾町における農家民泊事業の可能性について意見を交わしました。

研修会ではまず、北きりしま田舎物語推進協議会の取り組みを聞きました。特に、修学旅行による来訪者の増加状況や受け入れ農家の研修内容、事務局による事業の支援体制などについて詳しく説明がありました。

参加者からは、役員会などの組織体制や受け入れ農家を支える仕組み、受け入れ農家に必要な風呂などの設備整備などについての質問が次々に飛び出したほか、農家民泊を行う際にどんな体験プログラムをつくったらいいか、女性の協力

が事業の成功のためにどんなに重要かなど、さまざまな意見が交わされました。

富満会長と小倉事務局長は「できることから行い、どうしたら実現できるかを考えていくことが大切」とアドバイスし、民泊事業を取りまとめ、支援する事務局の重要性を強調していました。また、受け入れ体験を通して民泊に前向きに取り組むようになった農家の例も紹介され、会場はたいへん盛り上がりました。

綾町らしい民泊事業はどんなものか、民泊事業にどんな可能性があるのかを考えるいいきっかけになった今回の研修会。ワーキングなどで引き続きアイデアを出し合い、考えていきます。



コラム

ヒメカマキリ

照葉樹林の木の上で暮らす小さなヒメカマキリ。日本固有の種類ですが、普通のカマキリとは系統が違い、海外にいる花によく似たハナカマキリに近い仲間です。動きが早く、よく飛びまわり、危険を感じると死んだふりをします。

自分より体の小さいものは、同じ仲間でも何でも食べてしまう力マキリ。指

先に乗るほど小型のヒメカマキリが樹上で暮らすのも、ほかの大型のカマキリとの競争を避けて、上手に生きていくために身につけた戦略なのかもしれません。

